

「サブサハラアフリカ地域 CARD-CAADP 連携強化による アフリカ稲作開発振興」コース研修委託業務

国名	日本国内
発注者	国際協力機構(JICA) 農村開発部、筑波国際センター
事業分野	農村開発 国内業務
実施期間	2013年7月から約3ヶ月間/2014年から約6ヶ月間 (来年度も実施予定)



©The World Factbook

事業の背景

JICA は AGRA : Alliance for Green Revolution in Africa と共に、2008 年 5 月に「アフリカ稲作振興のための共同体 (CARD :Coalition for African Rice Development)」イニシアティブを立ち上げ、これに基づいてサブサハラアフリカ地域における稲作の更なる振興に向けた支援を積極的に実施しています。支援対象となった 23 ヶ国については、国別稲作振興戦略 (NRDS) を策定し、同戦略をベースに各国政府がドナーと共に稲作振興に係る事業を実施していくこととなっています。なお、同イニシアティブは、2018 年までにアフリカの稲生産量を倍増させることと合わせ、政策人材育成を目標としています。



生産者による農業技術についての説明

事業の内容

目標達成のためには、フォーカル・ポイント関係者が CARD のプロセスについて理解を深め、包括的アフリカ農業開発プログラム (CAADP) との連携強化をはかることが重要です。

そこで本研修事業では、CARD 支援対象国の CARD 実施状況及び今後の方向性を共有するとともに、各国の稲作政策を進展させるため、継続的な情報交換に向けたネットワーク構築をはかりました。また、CARD 支援対象国の CAADP 担当者に、CARD の国別稲作振興戦略 (NRDS) が CAADP の稲作部分を担うという共通認識の醸成促進を行いました。

さらには、我が国の稲作振興にかかる取り組みや経験について理解を深め、適用を検討すると同時に、CARD-CAADP 連携強化の他国の優良事例を共有・理解し、自国での連携強化に向けた取り組み計画の改善をしています。

参加国の代表が議論を重ねることにより、それぞれの国が抱える課題が明らかになり、解決策を模索することに役立っています。



収穫後処理施設の見学



各国代表者による情報交換